

第2 実践事例

事例1 幼児期に育まれた力を見取り、教育課程をつなぐことを図った事例

- 学年 第1学年
- 主な領域 スタートカリキュラム 学校と生活 内容(1)
- 事例のポイント
 - ① 幼児期における遊びを通した総合的な学びから、小学校の生活科を中心とした各教科における学習に円滑に移行できるようにする。
 - ② 進んで自分らしさを表出し、自分のもっている力を働かせるようにする。
 - ③ 入学当初の児童の発達の特徴に配慮し、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をする。
 - ④ ICT端末を使うことで、事前にイメージを共有して、児童が安心して学べるようにする。

1 単元名・教材名 「がっこうだいすき～スタートカリキュラム～」(8時間)

2 単元について

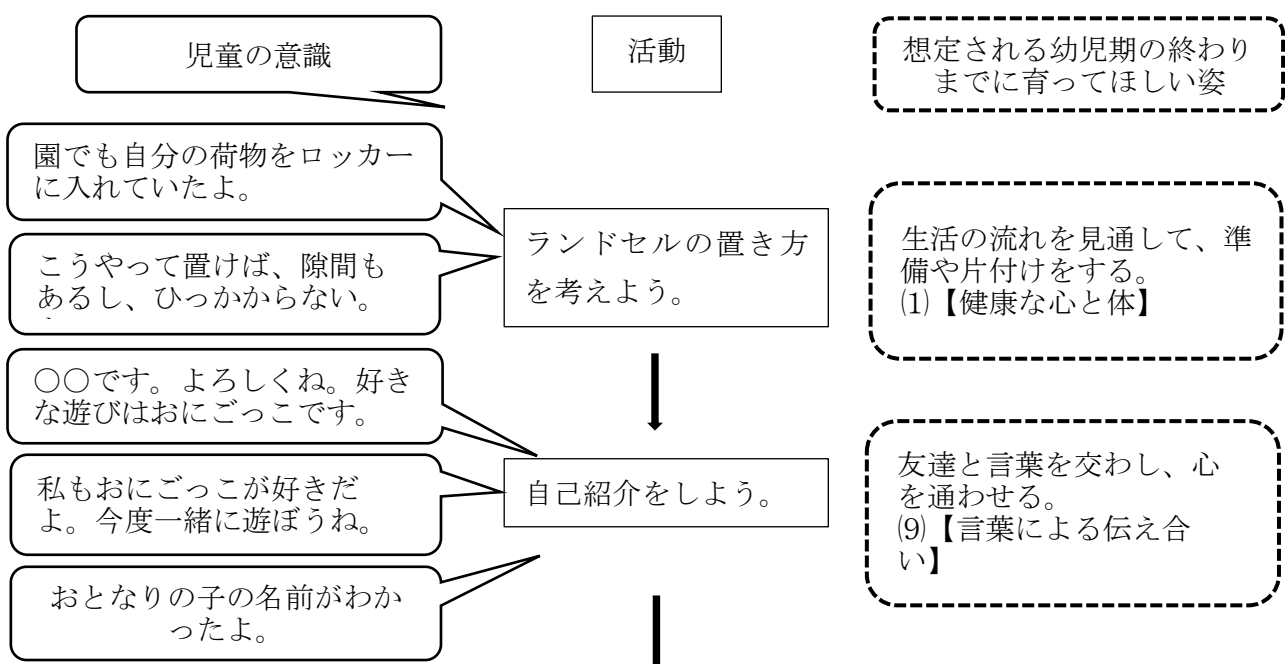
(1) 児童の実態について

入学前の児童は、小学校への期待と不安をもっている。入学当初の活動において、つまずいてしまうと、登校不安になってしまう児童もいる。幼児期の教育においては、遊びを通して達成感や満足感を味わったり、葛藤やつまずきなどの体験をしたりすることを通して様々なことを学んでいる。こうした日々の遊びや生活の中で資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿をまとめたものが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である。入学当初児童の、これまでの体験や学び・育ちを十分に踏まえ、小学校のカリキュラムへと滑らかに接続していくようにする。幼稚園や保育園に通っていなかった児童については、家庭と連絡を取り、丁寧に実態把握を行う。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

小学校においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、生活科を中心として各教科の学習を合科的・関連的に教育課程をつないでいくことが重要である。一人一人のよさや可能性などを把握し、児童が安心して学校生活を送ることができるよう、児童に対する理解を深めていくようにする。特に入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場면을意図的につくることにより、幼児期の教育と小学校教育との接続の一層の強化を図っていく。

(3) 児童の意識の流れ



もうすぐ長い針が5になるよ。着替えないとね。

園の時より大きい鉄棒で回れるようになりたいな。

白いちょうちょうがいたよ。

体育着に着替えて、校庭で遊ぼう。

しなければならないことを自覚し、行動する。(2)
【自立心】

中庭にたんぽぽの綿毛がいっぱいあったよ。

校庭を見に行こう。

身近な自然に触れ、その楽しさや不思議さに感心をもつ。
(7)【自然とのかかわり・生命尊重】

ふわふわでかわいかったうさぎの絵を描きたいな。

生き物をさがしに行こう。

感じたことや考えたことを身体などを使って表す。
(10)【豊かな感性と表現】

だんご虫をさわると、こうやって丸くなるんだよ。

こわがっているのかな？

ちょうちょうがこうやって飛んでたよ。

ものの性質を感じとったり、気付いたりする。
(6)【思考力の芽生え】

ブランコは10回こいたら交代しよう。

みんなで遊ぶと楽しいね。

みんなで仲良く遊具で遊ぼう。

楽しく遊ぶために、きまりをつくったり、守ったりする。
(4)【道徳性・規範意識の芽生え】

班長さんは、いつも階段を上っていくから、一番上の教室にいるのかな？

一緒に探そう。

お兄さん、お姉さんの教室を探しに行こう。

友達と積極的に関わる。
(3)【協同性】

校長先生のお部屋はどこですか？

お部屋に数字が書いてある。

学校の中を見てもみよう。

いろいろな人と親しみをもって関わる。
(5)【社会生活との関わり】

このお部屋は、何て書いてあるの？

標識や文字の役割に気付き、興味や関心・感覚をもつ。
(8)【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

3 単元の目標

スタートカリキュラムを通して、学校の施設の様子や、学校生活を支えている人々や友達について考え、学校での生活は様々な人がいて、様々な施設があることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、進んで自分らしさを表出したりして、自分のもっている力を働かせたりすることができるようにする。





4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①スタートカリキュラムを通して、学校での生活は様々な人がいて、様々な施設があることが分かる。	①スタートカリキュラムを通して、学校の施設の様子や、学校生活を支えている人々や友達について考えている。	①スタートカリキュラムを通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、進んで自分らしさを表出し、自分のもっている力を働かせたりしようとしている。

5 指導と評価の計画（全8時間扱い）

時	主な学習活動	他教科等との関連	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連	生活科の評価
1	○ランドセルの置き方を考える。	学級活動との関連	(1)【健康な心と体】	内容(1)の3観点を、8時間の中で評価する。
2	○自己紹介をする。	国語、学級活動との関連	(9)【言葉による伝え合い】	
3	○校庭で遊ぶ。	体育との関連	(2)【自立心】	
4	○校庭に何があるのかを見に行く。	図工との関連	(7)【自然との関わり・生命尊重】	
5	○生き物を探しに行く。	音楽との関連	(10)【豊かな感性と表現】 (6)【思考力の芽生え】	
6	○仲良く校庭の遊具で遊ぶ。	道徳との関連	(4)【道徳性・規範意識の芽生え】	
7	○上級生の教室を探しに行く。	図工との関連	(3)【協同性】 (5)【社会生活との関わり】	
8	○学校の中に何があるのかを見に行く。	算数、国語との関連	(8)【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】	

6 入学当初の生活科を中心とした合科的・関連的な指導に配慮した週案例

	1日目	2日目	3日目	4日目
朝の活動	自分の机を見付け、机の上に荷物を置く。	朝のしたくを終えたら、折り紙をしたり、絵本を読んだりする。	朝のしたくを終えたら、折り紙をしたり、絵本を読んだりする。	朝のしたくを終えたら、折り紙をしたり、絵本を読んだりする。
	読み聞かせを聞く。			
1		読み聞かせを聞く。		読み聞かせを聞く。
	【生・学】 ランドセルの置き方 朝のしたくのやり方 ※園で自分の荷物をどうしていたかなど、思い出させながら考えさせる。(1) 【健康な心と体】	【生・学】 名前の教えっこをする。 		【生・学】 朝の会のやり方を話し合う。
2	【学・音】 朝のあいさつをし、園で歌ったことのある歌を歌う。	【生・国】 自分の名前や好きな物の絵を用紙に書く。 	【生・体】 体操服の着替え方を話し合う。 校庭で遊ぶ。	【生・図】 校庭には何があるのかを、みんなで見つけ、伝え合う。 校庭で見つけたものの絵を描く。 ※模造紙などに、児童が描いた絵を貼り、みんなで校庭の地図を作る。
	【学・生】 同じ方向に帰る友達と顔合わせをする。 帰りのしたくのやり方を話し合う。	【書・国】 書写ノートでえんぴつを持つ練習をする。	校庭で見つけたものや、楽しかったことなどを話す。	
3	読み聞かせを聞く。	読み聞かせを聞く。	読み聞かせを聞く。	読み聞かせを聞く。
	編 P87 指導計画作成留意事項(3)	事例のポイント① 友達の好きな食べ物や遊びを聞きながら自己紹介をする活動を楽しむことで、「自分の名前を書きたい。」という思いを持たせ、自然に文字の練習につなげた。		
4	【学校行事】 通学班編成会議	事例のポイント③ 入学当初の児童の発達の特徴に配慮し、この時期の学びの特徴を踏まえて、座って活動や学習をする時は、10分から15分程度の短い時間で時間割を構成したり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定する。	編 P87 指導計画作成留意事項(3)	

	5日目	6日目	7日目	8日目
朝の活動	時間になるまで、折り紙をしたり、絵本を読んだりする。	時間になるまで、折り紙をしたり、絵本を読んだりする。	時間になるまで、折り紙をしたり、絵本を読んだりする。	時間になるまで、折り紙をしたり、絵本を読んだりする。
1	【学・国】 教材の読み聞かせや、言葉集めゲームをする。	【学・生】 1年生全体で一緒に遊ぶ。 ↓	【国】 教科書を音読する。 言葉集めゲームをする。 ひらがなを練習する。	【生・算・国】 体育館など、教室以外の部屋も見に行く。 ※次单元「がっこうたんけん」につなげる。 ↓
2	【生】 生き物探しをする。 ↓ 見つけた生き物の動きの真似をして遊ぶ。 ↓	【生・道】 みんなで遊んで、楽しかったことや、けんかをしないで仲良くできたことなどを話し合う。 【書・国】 書写ノートでえんぴつを持つ練習をする。	【生】 お兄さん、お姉さんや、班長さんを探しに上級生の教室を見に行く。 	【道】 学校の約束について考える。
3	【音】 みんなで歌ったり、身体表現をしたりして楽しむ。 【学】 給食の準備や片付けの仕方を知る。	【算】 数当てゲームをする。 ↓ 算数の教科書で学習をする。	【生】 上級生の教室を見に行った時に見つけた、保健室や職員室、校長先生のことを振り返る。 ↓	【国】 教科書を音読する。 言葉集めをする。 ひらがなを練習する。
4	 読み聞かせを聞く。	【国】 教科書の読み聞かせをしたり、一緒に読んだりする。 ひらがなを練習する。 読み聞かせを聞く。	【図】 見つけたものなどを、絵にかき、大きな紙などに貼っていく。 ※模造紙などに、児童が描いた絵を貼り、みんなで校舎の地図を作る。 読み聞かせを聞く。	【体・算】 並びっこや、集合ゲームをする。 校舎を見上げて、どこが何年生の教室か考えたり、教室の数を数えたりする。

事例のポイント④

昨年度の5年生の給食時の様子を、動画撮影しておいたものを大型テレビで見せることで、イメージをもたせて安心できるようにし

事例のポイント②

朝の活動や帰りの前の時間などは、幼児期の生活に近い活動を取り入れ、安心感をもたせる。道具箱の使い方や朝の会の仕方など、園でやっていたことを基に考えさせることで、「今までやっていたことと同じこともある。これならできそう。」と自信をもって活動できるようにした。

7 児童の活動例（学級活動との合科的・関連的な指導） 1日目の1時間目

児童の活動・意識	評価（●）と支援（○）	時間
<p>1 ランドセルをロッカーにしまう。</p>	<p>○ランドセルを自由にロッカーにしまわせ、いろいろなしまい方から、よい方法を考えるようにする。</p>	2分
<p>ロッカーが使いやすいように、ランドセルの入れ方を考えよう。</p>		
<p>2 様々なランドセルのしまい方を見て、一番使いやすい入れ方を話し合う。</p>	<p>○幼児期の経験を引き出し、ランドセルのしまい方を考える。</p>	10分
		
<p>・防犯ブザーに誰かぶつかっちゃうかもしれないよ。</p>	<p>・入れる時、きつくて大変だったよ。 ・取るのも大変そうだね。 ・ランドセルも「狭いよ。」って言ってる。</p>	
		
<p>・歩いている人にひっかかちゃって危ないよ。</p>	<p>・これなら横に隙間もあるし、まだ何か入れられるから、これがいいんじゃない。 ・これならランドセルもうれしいね。</p>	
<p>3 みんなで考えたランドセルのしまい方を実行する。 ・みんなでいい入れ方を考えられてうれしいね。 ・自分達でランドセルのしまい方を考えられたね。 ・これからもみんなでいい方法を考えたいね。</p>	<p>●園で自分の荷物をロッカーに入れていた経験から、ランドセルのしまい方の一番良い方法を話し合っている。（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連(1)健康な心と体）【態】(行動、発言) ○自分にとっても、周りの人にとっても、ランドセルにとっても良い方法を考えることができたことを認め、これからの学校生活でも今までの経験を生かし、自信をもって生活できるよう、児童が考える時間を効果的に取るようにする。</p>	3分

8 本実践を振り返って

(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識したスタートカリキュラム

幼児期までの学びや育ちを小学校で生かしていくには、入学当初の児童が、入学までにどのような経験をしてきているのかを教員が理解しておくことが重要である。そこで、年度当初に、学校全体でスタートカリキュラムについて情報を共有し、周りの大人や上級生が手を出しすぎずに、児童が入学前までの経験や学びを生かして生活できるよう、環境を整えていくことを共通理解した。幼稚園や保育所からの引き継ぎ事項だけでなく、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(小学校学習指導要領解説生活編付録6 p127~128)に目を通しておくことで、入学当初の児童がどのように育ってきたのか、どのような力や態度が身に付いてきたのかが分かった。さらに、それをスタートカリキュラムに反映させることで、入学直後の1年生が安心して、より主体的に小学校生活を送る姿が見られた。

(2) スタートカリキュラムの目標

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に、児童のこれまでの学びや育ちの姿を具体的に想定してスタートカリキュラムの目標を立てた。「一人一人の児童を理解すること」を重視し、「ここまでできなくてはいけない」、「全員がみんなと同じようにできなくてはいけない」、「椅子に座ってられない子を座らせなくてはいけない」などといった指導にならないように注意することが大切である。一人一人を理解し、児童が今もっている力を、自信をもって発揮しながら学校生活を送ることができるように働きかけた。

一人一人の様子をよく見るために、毎日名簿に児童の様子をメモ程度に記入した。一日の終わりには、学年で「この子はこういうよさや特徴をもつ子」という情報を共有し、「明日は、今日メモできなかった子の様子を書けるようによく見よう」と話をした。メモをすることで、必ず全員の児童を意識的に見ることができた。また、そのメモを振り返ることで、「短期間でこんなに成長するのだ」ということにも気付くことができた。

児童が、就学前での経験を生かせるように、「幼稚園や保育園ではどうだったかな。」など、学校生活で取り組むべきことをできるだけ自分たちで考えさせることで、教え込むよりも定着が早いことも分かった。また、「自分達で良い考えを見つけられた。」という経験を積むことによって、自信をもって学校生活を送ることができた。何をするにもよりよい方法を考えたり、ルールの意味を考えたりして行動できるようになった。その結果、登校しぶりもなく、児童が学校に慣れ、自分の力を安心して発揮することができた。

(3) 「児童も楽しい、教師も楽しい」スタートカリキュラム

スタートカリキュラムを実践する以前の入学当初の指導では、「教えないといけない」「これをできるようにさせなくてはいけない」と教師自身が追い込まれ、そこから外れる児童に頭を悩ませることがあった。しかし、スタートカリキュラムを実践することで、一人一人の日々の成長に目を向けることができるようになった。課題のある児童に対しても、「この子はこんなことに興味があるのだな」「読み聞かせをしている間は静かに座ってられるのだな」と、この児童はどんな子なのかを理解することに力を注ぐことができた。毎日いろいろなことができるようになる児童の姿を見ることができるのは、とても嬉しかった。朝の支度が終わったら折り紙をしたり、お絵かきをしたりする時間や、帰りの支度が終わったら読み聞かせをする時間を作ったりすることで、児童も「園の時と一緒だ。」と感じ、安心して生活できていた。入学当初の慌ただしさをあまり感じさせずに落ち着いて活動ができた。スタートカリキュラムとは、「児童も楽しい、教師も楽しい」カリキュラムだと感じた。